教員評価について

令和4年度の各教員の教育・研究等の実績に基づき、以下のとおり教員評価を実施しましたので、公表します。

1 教員評価の目的

各教員が一年間の活動内容を振り返り、課題・方向性を再確認し、教育・研究・地域貢献・管理運営活動への貢献を高めるとともに、各教員及び大学組織全体の教育・研究活動等の活性化を図ることにより、「地域社会と連携し、本県の保健・医療・福祉の充実に貢献する大学」の実現を目指します。

2 評価対象期間

令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

3 評価対象者

本学に所属する専任の教員（期間を定めて雇用する教員を含む。）である教授、准教授、講師、助教及び助手 49名

4 評価者

評価の客観性・公平性を高めるため、自己評価を行った後、一次評価者、二次評価者及び総括評価者による評価を行いました。

- ① 一次評価者：普遍分野及び専門基礎分野の分野長並びに専門分野の領域長
- ② 二次評価者：学部長（学部長については自己評価）
- ③ 総括評価者：学長

5 評価対象項目

「教育」「研究」「地域貢献」「管理運営」の4つの分野に係る教員の諸活動について、多面的に評価しました。

6 評価の実施方法

(1) 自己評価

評価対象分野毎に「評価区分」「評価項目」を設け、「算定方法」により実績値に単位ポイント数を乗じて「自己評価点」を算出しました。

また、新たに個人総括表の様式を追加し、全員に、分野毎に、評価に値する取り組み・課題・今後の方向性について自由記述で記載をしてもらいました。

さらに、領域総括表の様式を追加し、専門分野の領域長に、領域における取り組み・課題・今後の方向性について自由記述で記載をしてもらいました。

(2) 一次評価

被評価者から提出された教員評価シート、個人総括表、実績内訳書等により実績内容等について精査・確認するとともに、評価点を付する項目については5段階評価を行いました。

(3) 二次評価及び総括評価

被評価者の取組姿勢や組織に対する貢献度などを勘案し、評価対象分野ごとに総合的に評価を行いました。

7 教員評価の見直し

今回の教員評価の実施に当たり、新規に個人総括表及び領域総括表を追加し自由記述として記載してもらい、個人及び領域内での課題等が確認できました。

今後は、教員の意見を踏まえ、教員評価のあり方について早急に検討を行い、大学運営の改善に活用していきます。